

令和 7 年度 第 1 回丸亀市産業振興推進会議 全体会議 (会議録)	
日 時	令和 7 年 7 月 18 日 (金) 午後 1 時 00 分～午後 3 時
場 所	ボートレースまるがめ B ポート 2 階会議室
	(丸亀市産業振興推進会議 委員) 22 名中、18 名出席 綾野委員、荒川委員、内海委員、梶谷委員、川田委員、小山会長、 杉尾副会長、鈴木委員、筒井委員、西川委員、馬場委員、檜垣委員、 福田委員、藤井委員、古沢委員、松永委員、矢野委員、山本委員 (五十音順) (丸亀市産業生活部) 平尾部長 (丸亀市産業生活部 産業観光課) 徳田課長、逢坂副課長、村山商工労政担当長、本田観光交流担当長、 請川主任、和泉主事、三附主事 (丸亀市産業生活部 農林水産課) 造田農政担当長、久保水産林務担当長 (丸亀市農業委員会) 山田次長
欠席者	今村委員、柴田委員、豊島委員、真鍋委員 (五十音順)
議 題	1. 委嘱状交付 2. 挨拶 (平尾部長) 3. 自己紹介 4. 丸亀市産業振興推進会議について 5. 会長、副会長の互選 6. 議事 (1)専門部会の構成について (2)第三次産業振興計画実施計画(令和 6 年度年度取組実績報告)について (3)その他 7. 周知事項等

会 議 の 概 要

1. 委嘱状交付

委嘱状及びその他配布資料の説明。

2. 挨拶

丸亀市産業生活部 平尾部長より挨拶。

3. 自己紹介

委員・事務局員の自己紹介。

4. 丸亀市産業振興推進会議について

(事務局)

資料 1 により、丸亀市産業振興計画や丸亀市産業振興推進会議の役割の説明。

5. 会長、副会長の互選

(事務局)

会長、副会長の互選について意見はあるか。

(矢野委員)

事務局に一任したい。

(事務局)

矢野委員より事務局に一任の案をいただいたが、よろしいか。

【各委員、意見なし】

(事務局)

事務局に一任いただいたので、会長に京都橘大学経済学部教授の小山様、副会長に丸亀市中央商店街振興組合連合会の代表理事の杉尾様をお願いしたい。

【各委員、賛同の拍手】

(事務局)

小山会長は会長席に移り下さい。

(小山会長) (杉尾副会長)

挨拶

(事務局)

ここからは小山会長に議事進行をお願いしたい。

6. 議事

(1) 専門部会の構成について

(小山会長)

専門部会の構成について事務局から何か案はあるか。

(事務局) ※資料を配布

今回、5つの専門部会の設置が必要と事務局は考えている。第三次産業振興計画実施計画の審議にあたり、「農業・水産業部会」「工業・地場伝統産業部会」「商業・サービス業・観光産業部会」の設置を提案する。構成については配布している名簿の案のとおり提案したい。また、昨年度に創設された「丸亀セレクション制度」の認定審査を行うため、「ブランド認定部会」を設置し、会長と副会長、各部会長の計5名で構成する。さらに、今年度は「丸亀市観光戦略プラン」の策定年度にあたることからこれに伴う審議を行う「観光戦略プラン策定部会」を設置し、会長と副会長、各部会長、「商業・サービス業・観光産業部会」の構成委員を含む計10名で構成することを提案する。

(小山会長)

「農業・水産業部会」「工業・地場伝統産業部会」「商業・サービス業・観光産業部会」それぞれ非常に密接に関わっていると思う。特に「工業・地場伝統産業部会」と「商業・サービス業・観光産業部会」は関連性が高い部会となっているので、ここについては今年度「観光戦略プラン策定」ということもあり、更に部会等、機会があれば充実させていければと考えている。私としては事務局提案の構成委員に異論はないので配布された名簿どおりに指名させていただきたい。

【各委員、意見なし】

(小山会長)

それでは、専門部会に移らせていただく。

(2) 第三次産業振興計画実施計画(令和6年度年度取組実績報告)について

(小山会長)

最初に部会長の選任をしていただき、部会長が決まった部会から議論をしていただく。時間になったら、各部会長より審議内容の発表をお願いしたい。

【各委員、各部会に分かれる】

【各専門部会で意見交換・発表】

(農業・水産業部会、松永委員)

何点か話題が出て、それぞれに報告をいただき協議をさせていただいたが、1つ大きく話の中で出てきたのは、評価の点について。A～E 評価の中で、例えば我々の農業の項目 1-1-3 に記載ある法人の設立について、昨年度は 1 法人の設立目標に対して 0 であった。本年度は努力して設立できたが、0 を C 評価とするのはいかなものかという話が出た。数値目標を置いた以上は、設立が 0 なら E 評価ではないのかという判断になる。他にも、項目 1-4-4 の親子料理教室の回数も 2 回の目標に対し 0 回、これも B や C や D とかではなく E 評価ではないかと意見は出た。あと、数値について、いくらで B なのか、いくらで C なのか、それぞれの基準値を作っておくのが良いのではないかという意見も出た。第三次産業振興実施計画の中で項目があって出ているが、基準評価をする以上は基準値を教えて欲しいという意見もあった。また、来年度の目標の中で基準が変わっているものがある。例えば、項目 1-2-1 の中で遊休農地の活用と耕作放棄地の発生防止で、従来 410 ヘクタールをベースに毎年 3 ヘクタールずつ減らしていこうという動きだったが、昨年一気に数値目標が増加している。これは、調査方法が変更になり、タブレット調査を導入したことにより、情報が「見える化」したことで実態が増加した。これをベースにすると全然数値が変わるので、これをベースにして来年度以降 3 ヘクタールずつ減らしていくように取り組もうと考えている。そのため来年以降はベースを変えさせていただければと思う。これと同様に特産品の開発の項目 1-3-2 について、アスパラガスや桃の作付面積が挙がっているが、後継者の問題等もあり厳しいということで来年度以降は目標値を減らしていくべきではないのかと話が出ている。例えば、桃についてはずっとベースが 72 ヘクタールであったが、段々減ってきており、来年は 50 ヘクタールまで目標を減らさないといけないのではないかと考えている。当初の計画では 72 ヘクタールでも十分やれたと思うが、今は高齢化と色々な問題もあり、変わってきているため、そういうところも加味して取り組んでいきたいと考えている。アスパラガスについても同様である。漁業の関係も同じで、項目 1-3-4 については下方修正をさせていただいている。これについては漁協の協議会が解散した関係で、基本となる数値が変わったので下方修正をさせていただく。このデータをベースにして今後取り組んでいきたいと思う。短時間ではあったが、皆さんの意見を聞きながら、基本的な話にはなったが来年度以降取り組んでいこうと思う。

(工業・地場伝統産業部会、筒井委員)

まず評価について A～E について担当から説明を受けたが、なかなか C と D の評価の仕方が難しいという話が出た。しかし、細かく複雑にすると評価をどう見ていいのか分からなくもなるため、今まで通りやっていただき、その中で細則の説明をしていただくという話になった。あと、細かなところの話では、産業振興支援補助金について、総額を増やせないのか、今年はまだ予算があるが、毎年 6、7 月頃には予算一杯になってしまうという意見も出た。来年 2 月頃のイベントに出展するから補助金が欲しいとなった時にはもう無いという状態になっている。補助金総額の増額については難しいと思うので、今年やっていただいている、補助金の上限を 30 万から 20 万に下げたりということは今後も続けて欲しいと思う。また、現在紙ベースで補助金の案内が出ているが、その紙自体も発行しない、それ以外の媒体はないのか、ということも検討していただきたい。また、特に産業振興支援補助金で 1 番問題になるのは人材確保。丸亀近辺の各事業所は人材確保に非常に苦しんでいる中で、合同説明会を行政主体で行ったり、周辺の行政とも一緒になってやったり、今後そういったことが出来ないのかを我々の部会からはプッシュしていきたいと思っている。

(商業・サービス業・観光産業部会、西川委員)

他の部会でも出てきたが、評価の部分で話が盛り上がった。数値から出てくる評価の部分と、ABC 段階で出てくる評価の部分とがあるが、項目によって最終 ABC 評価が変わってくるよねという話になった。元々行政の計画に数値目標は無かったが、数値目標でないと我々は分からないよという意見がこの審議会の中で出た。施策を見た時に、ABC 評価や○×△評価で分かるのかという話があり、数字で出してくれたら我々も分かりやすいということでこの評価方法になった。ただ、今日の説明の中で、120 点いつているのに C 評価、80 点なのに C 評価のものがあつた。計画の数値もそうだが、やっていく段階で、色々な環境の変化、プラスマイナスされてくるので、その説明がないと、最終これで A にしました、C にしましたと結果の評価が中々出来ない。説明のやり方をもっと詳しく、数値はこれだがこういう理由でこの評価なんだと、注釈でも別表でも良いので書いていただくと非常に分かりやすいものになる。また、我々中小企業は弱みの部分に金を注ぎ込んで強くするのは大変なので、強みの部分を少ない資金で伸ばしていけないか、そういう戦術を使いながら考えていった方が全体の底上げが出来るのではないかという意見も出た。また、全体を見ると分科会の開催は必要なんだと、もう少しそれぞれが深掘りしていかないと計画に反映できないという意見もあり、分科会の重要性を再認識した。こういう評価ができたこと、審議会の中での意見を取り挙げてくれて数字の評価もしていただいた。また、行政の方から、審議会に出てきて黙って話を聞くだけで、何も話さずに帰るのは止めてくれ、と話をしてくれたことがある。計画立てて予算を立てるのは職員の仕事であり、我々の話を聞かなくてもできることである、何

のために審議会があるのか、もう少し考えて欲しいと、逆に職員の方から話をされた。実はそれを話されたのは今の平尾部長であり、最初にこの審議会ができた時にそのような話をしていただいた。実際の状況をちゃんと把握して欲しい、あるいは要望、こういう風になって欲しいという意見も含めて、審議会の中で職員の方には分かっていたければと思う。そのようなことをもう少し意識しながら審議会を進めていけたらと個人的に思う。

(小山会長)

3 部会から報告を受け、論点がいくつかあったかと思う。1 つは、やはり評価基準をどう設定していくのか。数値目標の設定とその評価、あるいはその評価基準をどこに位置付けていくかが今後検討課題になるのではないかと思う。プロセスも含め、説明いただければ非常に有り難いかなと思う。また、中小企業の強みを生かすという話があったが、評価をみても D や E というものもある。伸ばせるところは伸ばしていくが、限界もそろそろ見えてきているかもしれない。私達も次期産業振興計画を見据えた上で、今後考えていかなければならないのであれば、今日の議論が次の施策を検討する 1 つの材料になったのではないかと感じた。また、部会の重要性について、本日 1 時間審議の時間を取らせていただいたが、やはりまだまだ足りないのではないかと思う。必要に応じて部会を交えていただき、意見を深めていただくと活発な産業振興推進会議になるのではないかと感じた。様々な意見や議論をしていただいたが、改善に向けて頑張っていければと思う。引き続きご協力をお願いしたい。

(3) その他

(事務局)

- ・議事録作成と送付の案内。

4. 周知事項等

(事務局)

- ・観光戦略プラン策定部会の打ち合わせ案内
- ・ブランド認定部会の現地審査の案内

(西川委員)

- ・中小企業家同友会中小企業魅力発信月間セミナーの案内。

(7 月は中小企業の存在意義や魅力に関する正しい理解を醸成する国民運動とするための「中小企業魅力発信月間」)

午後 3 時閉会

(以上)